

ふたがわかぶきしばい  
二川歌舞伎芝居が奉納されました

去る10月15日（土）、城山神社（二川地区）において二川歌舞伎芝居が奉納されました。今回は、令和3年（2021年）に二川歌舞伎が演じられる回舞台（和歌山県指定文化財）の屋根が修復されたこと、また今年には城山神社の拝殿が改築されたことを記念して奉納されたものです。

二川歌舞伎芝居は、城山神社の秋祭りに奉納されてきた農村歌舞伎であり、江戸時代から続く200年以上の歴史をもつ伝統芸能です。その中でも和歌山県指定文化財である「二番叟」は、歌舞伎の冒頭で演じられ「姫の舞」「鶴の舞」「鈴の舞」の3部からなり、三味線・鼓・太鼓・横笛・拍子木・



謡<sup>うたい</sup>にのって演じられます。

奉納にあたっては、事前の稽古や舞台設営の他に、当日の準備や化粧・着付けなどに多くの方々が裏方として支えており、保存会が中心となって地域が協力して開催されています。今回、姫と鶴の役者は35年ぶりに演じられたようですが、ブランクを感じさせない身のこなしが印象的でした。姫の動作はしなやかであり、鶴は力強い演技がみられるなど熱演が伝わってきました。また、今回の奉納は三味線・鼓・太鼓・横笛・謡なども全て生で演奏され、かつての村芝居の雰囲気自体験できる貴重な歌舞伎芝居となりました。

芝居の後半には、8人の男性が床下の装置を押して回舞台が回転すると客席からは大きな歓声が上がっていました。